

*本メールは、関東更生支援ネットワークにご登録いただいた方々にbccで一斉配信しております。

~~~~~

目次

- 1 今月の再犯防止トピックス  
「関東更生支援ネットワークのパンフレット、できました！」
- 2 再犯防止・更生支援ワード解説コーナー Vol.4  
「ソーシャルファーム」って何？
- 3 更生コラム「アスキザス」Vol.6  
～社会を明るくする運動～
- 4 お知らせコーナー  
「関東更生支援ネットワーク会員セミナーの開催延期について」

~~~~~

-
- 1 今月の再犯防止トピックス
「関東更生支援ネットワークのパンフレット、できました！」

このたび、ついに当ネットワークのパンフレットができました！

発足以来、事務局担当者の手作りチラシで広報してきましたが、新しいパンフレットは、ソーシャルファームである「Tokyo Social Design」さんによる、障害のある方が描いた素敵なイラストを中心に、黄色と黒の2色でシックにまとめた、変形三つ折り6ページ、アルバムCDサイズで場所を取らないクールなデザインに仕上がっています！

近日中に当ネットワークのウェブサイトでも公開しますが、「勤務先に置いてもいいよ！」

「知り合いに配りたい！」などなど、このパンフレットの配布にご協力いただける方は、事務局宛てメールで、必要部数（10部単位でお願いします）、送付先住所、そして利用方法を簡単に記載してご連絡ください。確認の上、事務局から送付させていただきます。

※数に限りがありますので、ご要望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

~~~~~

- 2 再犯防止・更生支援ワード解説コーナー Vol.4  
「ソーシャルファーム」って何？

「ソーシャルファーム」という言葉、皆様はご存じでしょうか？

「ソーシャル」は社会的という意味ですが、「ファーム」は・・・農場？

実は、この「ファーム」は、農場を表す「farm」ではなく、企業を表す「firm」なのです。直訳すれば、「社会的企業」ということになるのでしょうか。

働きたくても、働くことが困難な人がいます。障害のある人、長年引きこもっている人、そして罪を犯してしまった人などです。そうした「就労困難者」と呼ばれる人たちを、民間企業という立場で一定数雇用し、実利を上げながらも彼らに活躍の場を提供するのが「ソーシャルファーム」です。

2017年に策定された再犯防止推進計画においても、ソーシャルファームという言葉は出てこないものの、就労支援の文脈で「ソーシャルビジネスとの連携」という文言が盛り込まれています。

東京都においては独自に条例を定め、あらゆる都民の就労促進という観点からソーシャルファームの設立をバックアップしています。

SDGsの掲げる「誰一人取り残さない社会」の実現にも貢献するソーシャルファームは、ヨーロッパにおいて特に広がりを見せていますが、我が国においても近年注目を集めているのです。

~~~~~

3 更生コラム「アスキザス」Vol.6 ～社会を明るくする運動～

長寿国ニッポンは、企業でも長寿国である。創業100年以上の企業数調査で、世界一になった（日経BPコンサルティング/2020年調査）。半数近くが日本企業という結果だ。さらに創業200年以上の企業では、その比率は65%まで上がる。

日本の社会的ムーブメントにも息の長いものがある。歳末助け合い運動は明治39年に遡る。さらに昭和22年からの赤い羽根募金の一環になった。戦前の「厚生運動」から発展したレクリエーション運動、「公明選挙」から名称を変更した明るく正しい選挙運動などもある。

今年72回となる「社会を明るくする運動」は、戦後の荒廃した社会から出発している。街には助けを必要とする子どもたちが、あふれていた。「更生保護」という言葉が初めて世に出たのは昭和24年7月。「犯罪者予防更生法」の施行による。こうした中、東京都心で世の中が明るくなることを願った人たちがいた。銀座の商店街の有志である。7月13日から1週間にわたり「犯罪者予防更生法実施記念フェア」を企画運営した。いわゆる「銀座フェア」である。パレード、バンドコンクール、のど自慢…当時の世相を映すイベントが数々あった。

翌年7月には「矯正保護キャンペーン」として一段と広がりを持って実施された。もっと身近に取り組んでもらおうと、昭和26年に名称を身近なものにした。“社会を明るくする運動”。一般の人に身構えることなく取り組んでもらうためである。法務府（現在の法務省）主唱として、大きく力強く社会に広げていくことになった。

「社会を明るくする運動」の歩みのなかで、認知度を聞いた内閣府の世論調査がある。

昭和46年	「聞いたことがある」	65.9%	「聞いたことがない」	34.1%
平成元年		60.3%		36.4%
平成21年		39.1%		60.2%

時代の変化とともに、関心度も変わってきている。この間、「重点目標」や「統一標語」のテーマ設定の模索が続いた。第60回の運動に向けて、名称のリニューアルが検討された。新名称募集には全国から2,900件近い応募があった。検討過程で、「社会を明るくする運動」という名称は社会に定着している、とのプッシュがあったとされる。名称はそのまま、地域や立ち直りというキーワードを盛り込んだ副題が加わった。「～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～」である。

時の流れは掴まなければならない。世界に知られる長寿企業の一つにLEGO社がある。ブロック玩具のレゴは、デンマークの小さな町工場で誕生した。子ども向けの木製ブロックはその後プラスチック製へと進化。世界的な人気玩具になった。

ブランドを維持することは容易ではない。1980年代後半、各国で基本特許が切れる。競合他社が廉価な類似品を販売し始める。90年代前半にかけては、スーパーファミコンやゲームボーイの攻勢があった。2004年、LEGO社は310億円の大赤字を抱える。

存在意義を、デジタル化の波を背に問い直した。まず、「レゴは決まった手順に従ってブロックを組み立てる遊びである」という思い込みを崩した。さらに二つのブレークスルー的な取り組みがあった。

「Kids are role models」：子どもが欲しいおもちゃを大人が直接聞き取りすることはしない。こどもに様々なおもちゃのプロトタイプで遊んでもらい、思いがけない反応から学ぶ。

「Build your Kronkiwongi」：Kronkiwongiはどこの国の辞書にも存在しない。造語である。世界の子どもたちにレゴを渡して、Kronkiwongiをつくってごらんという、思い思いに想像力を形にする。

LEGO社は、触れながら楽しむ遊び方が想像以上に浸透していることに気づいた。モノからコトへ。経験を届けることを中心に据えた。「教育」という価値提供に存在意義を見出した。2020年には自己資本利益率でGAFに匹敵する水準になった。LEGO社のポイントは、①顧客の動きから学び直す ②新たな価値を生むアプローチをする、ということである。

社会を明るくする運動を実現する場は地域社会である。それで言うと、LEGO社でいう「顧客」は、地域の人たち・市民ということになる。運動を知った人が、「私にはとても無理」と引くのではなく、「こうした運動なら私も何か手伝いたい」へ動き出してもらうこと。これまで見ていなかった分野に気づかせるような、わずかでも心を動かすような、そんなアプローチが求められている。

生命のメカニズムにしても、ものごとの本質は、要素としてのモノ自体ではなく、要素と要素の関係性、相互作用で生まれるコトにあると言われる。更生支援は動態である。伝統と革新の動的平衡を保てば、社会を明るくする運動は100年運動、さらに200年運動になるはずだ。

~~~~~

#### 4 お知らせコーナー

「関東更生支援ネットワーク会員限定セミナーの開催延期について」

会員の皆様には、既にメールにてお知らせさせていただいたとおり、本年3月2日に予定していた当ネットワーク会員限定の再犯防止・更生支援セミナーにつきましては、新型コロナウイルスの感染拡大状況が収束しなかったことから、開催を延期させていただきました。

20名という定員枠を超える参加申込みをいただき、事務局としてもぜひ皆様とお会いして、意見交換をしたかったのですが、非常に残念です。お申し込みいただいた会員の皆様、本当に申し訳ございませんでした。

しかし、新型コロナウイルスの状況を見据えつつ、万全の体制で再度の開催を期しております。その際はまた本メールマガジン等によりご案内させていただきますので、どうぞ今しばらくお待ちください。

\* \* \*

このお知らせコーナーでは、会員の皆様からも、セミナーや研修会の開催情報など、他の会員にお知らせしたい情報を募集しております。

再犯防止・更生支援に関連して何か耳寄りな情報などありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。本コーナーへの掲載を検討させていただきます。

~~~~~

最後まで読んでいただきありがとうございました。

本メールマガジンの配信を止めたい方は、事務局（下記連絡先）まで、件名に「アスワ配信停止」と記載したメールを送信してください。本文の記載は不要です。

関東更生支援ネットワーク事務局 東京矯正管区更生支援企画課

Mail : 1.toukyoukyousei.j7u@i.moj.go.jp

会員の皆様からのご意見・ご感想もお待ちしております！

~~~~~